轉じてこの時期の軍事技術方面をみるに

(二〇九) **鐵考**　大藏大臣官房編　明治二十五年

(二一〇) **鐵道論**　參謀本部編　明治二十一年

(二一一) **芝浦製作所六十五年史**　東京芝浦電氣株式會社編　昭和十五年

等の編纂物を史料としてかぞへうる。

ところでこの時期に達成された近代兵學思想の本格的流入と形成とについては

(二一二) **川上將軍**　鈴木榮治郎著　明治三十七年

(二一三) **陸軍大將川上操六**　德富猪一郎編　昭和十七年

(二一四) **故參謀次長田村將軍**　黑田貫正著　明治四十二年

(二一五) **元帥寺內伯爵傳**　黑田甲子郎著　大正九年

(二一六) **福島將軍遺績**　太田阿山編　昭和十六年

等の傳記書が參考となりうる。この方面では前出(二〇三)の著者によつて、近く「**メッケル少佐**」なる勞作が公刊されるが、これは當時の陸軍の內部事情、とくに陸大を中心とする教育方面の實狀について、最も豐富な史料をふくむものである。なほ右のほかに若干參考となるものとして、つぎのやうな書物を掲出しておく。

(二一七) **實地演習對策記事**　陸軍大學校編　明治十六年

(二一八) **明治二十一年二月參謀旅行記事**　參謀本部陸軍部編　明治二十一年

(二一九) **陸海軍聯合大演習記事**(二冊)　參謀本部編　明治二十三年

(二二〇) **初級戰術學教程**　メッケル著　明治十八年

(二二一) **獨逸基本戰術**　メッケル著　明治十九年

(二二二) **實施帥兵術**(三冊)　メッケル著　明治二十年

(二二三) **戰史講授錄**(五冊)　ブランケンブルヒ著　明治二十年

(二二四) **フォンヴキルデンブルヒ氏帥兵術**(「偕行社記事」附錄)　神尾・江橋筆記　明治二十一年

(二二五) **戰略論**(四冊)　ブルーメ著　明治二十四年

(二二六) **兵基新論**　菊池主殿著　明治二十三年

(二二七) **基本戰術講授錄**　松川敏胤著　明治三十年

(二二八) **戰爭論(クラウゼヴキッツへの手引)**　マーレー著　昭和七年

さて革新期を終つて、日清戰爭を對象とせる

第五章

に移る。こゝで一應軍事史と戰爭史との關係について觸れておきたい。前にもいつたごとく、戰爭史はそのまゝ軍事史ではない。前者はそれがどんな形式のものであれ、とにかく戰爭の經過の軍事的記述にその重點をおいてゐるのであるが、

軍事史の立場からいへば、かうした戰鬪や會戰の經過そのものはかならずしも第一義的性質をもつものではない。軍事的諸現象の內的合法則性を追求し闡明するといふ軍事史の方法的課題からみれば、一個の戰爭の運命は、その全體の姿容に於て軍事史記述の一結論をなすにすぎないのである。さればもしもこゝに、軍事史の立場から一つの戰爭を獨立せる對象としてとりあぐる場合があるならば、それは戰爭の外面的な樣相を追ふのではなく、あくまでその戰爭の運命を左右し決定した軍制上、軍事技術上、ならびに軍事思想上の諸要因を剔抉するのにつとめなければならない。そしてさらにこれらの諸要因と、戰爭のより廣汎な一般的諸要因との結びつきをも明らかにしなければならない。以上のことはしかし、戰爭史と軍事史とが全然無緣のものであるといふことを、決して意味しはしない。前者にとつて後者は不可缺の前提をなし、後者はまた前者を重要な一要素となすものである。戰史材料をいくらつみかさねてもそのまゝ軍事史とはなり得ないとは云へ、それらは矢張り軍事史研究上なくてはならぬ一資料なのである。けだし現象はすべて何らかの形において本質の反映なのであるから、軍事史はしばしば戰爭の諸現象のうちに、その方法的課題解決のための鍵をみいだしうるが故にである。

かうした意味からこゝでもまづはじめに、戰史的文獻を一應列擧することとする。日清戰史に關する文獻は徹底的に調べれば相當の數に達すると思はれるが、めぼしいものはだいたいつぎの如くである。

(三二九) **明治二十七八年日清戰史**（八卷）　參謀本部編　明治三十七—四十年
(三三〇) **二十七八年海戰史**（三卷）　海軍軍令部編　明治三十八年
(三三一) **日清戰爭實記**（五十二冊）　博文館編　明治二十七—八年
(三三二) **日清交戰錄**（四十冊）　春陽堂編　明治二十七—八年
(三三三) **日清戰爭**（十冊）　興文社編　明治二十七—八年
(三三四) **日清戰史**（八冊）　經濟雜誌社編　明治二十八年
(三三五) **日清陸戰史**　川崎三郎著　明治二十九年
(三三六) **日清海戰史**　川崎三郎著　明治二十九年
(三三七) **日清戰史**（七卷）　川崎三郎著　明治二十九—三十年
(三三八) **征清戰史**　下村初太郎著　明治二十七年
(三三九) **日清戰爭始末**　遠藤永吉・岡崎茂三郎共著　明治二十八年
(三四〇) **日清戰爭小史**　管原佐賀衞著　大正十五年
(三四一) **威海衞海戰記**　平田勝馬編　明治三十年
(三四二) **日清戰爭前後**　松下芳男著　昭和十四年

右のほか外國のものとして

(三四三) **日清戰史**　マキシム・サーブァージュ著成澤茂馬譯　明治三十四年
(三四四) **世界的日清戰評**　山口造酒纂譯　明治三十一年

が譯されてをり、また清國側のものとして

(三四五) **中東戰紀本末**　藤野房次郎譯　明治三十一年

は貴重な史料をふくんでゐる。このほか專門的な戰略戰術的觀點からの

（二四六）**日清戰史講究錄**　譽田甚八述　明治四十四年

があり、筆者は前出（一七）及び（三九）とともに、主としてこの書に依據しつつ本書の作戰的部分を記述した。

日清戰爭に大きな意義をもつてゐた外交關係のものとしては

（二四七）**伯爵陸奧宗光遺稿**　陸奧廣吉編　昭和四年

（二四八）**陸奧宗光傳**　渡邊幾治郎著　昭和九年

（二四九）**陸奧外交**　信夫淸三郎著　昭和十年

（二五〇）**日清戰爭と陸奧外交**　深谷博治著　昭和十五年

（二五一）**日支外交六十年史第一—四卷**　王芸生著長野・波多野編譯　昭和八—十一年

等がかぞへられる。

なほ特殊な部面のもの、すなはち日清戰爭と經濟問題、國際法問題などとの關係を論じたもの、あるひは醫務衛生について記述したもの等をあぐればつぎの如くである。

（二五二）**日清戰爭と經濟社會**　進修太郎著　明治二十七年

（二五三）**日清戰役國際法論**　有賀長雄著　明治二十九年

（二五四）**日清戰役海軍衛生史**　海軍省醫務局編

この戰爭についての淸國側の軍制や兵器關係の詳細な事實を知るのは困難であるが、まづ軍制方面では

（二五五）**支那軍事史**　コテネフ著高山洋吉譯　昭和十五年

が參考となり、軍事工業方面では

（二五六）**近代支那經濟史**　平瀨巳之吉著　昭和十七年

（二五七）**近代支那工業發達史**（二冊）　龔駿著中山五郎譯　昭和十七年

等がかなりまとまつた記述を有してゐる。

最後に日清戰爭に就ての個人の回想錄や、傳記中特に本戰役と關係深いと思はれるもの等を次に揭げておく。

（二五八）**戰袍余薰懷舊錄第一輯**　海軍有終會編　大正十五年

（二五九）**征淸壯烈談**（「戰記名著集」所收）　民友社編

（二六〇）**故陸軍中將山地元治君**　佐藤正著　明治三十五年

（二六一）**元帥伊東祐享**　小笠原長生著　昭和十七年

（二六二）**海戰日錄日淸役**　小笠原長生著

（二六三）**廣島大本營**　畑耕一著　昭和十八年

なほこの日清戰爭の章でとりあつかつた海軍兵學の形成について、若干の參考書をあげれば

(二六四) **海戰論**　コロム著水交社譯　明治二十九年
(二六五) **海上權力史論**（二冊）　マハン著水交社譯　明治二十九年
(二六六) **佛國革命時代海上權力史論**（二冊）　マハン著水交社譯　明治三十三年
(二六七) **海軍戰術論**　マカロフ著水交社版　明治三十二年
(二六八) **國防策議**　佐藤鐵太郎著
(二六九) **帝國々防史論**　佐藤鐵太郎著　明治四十一年
(二七〇) **元帥島村速雄傳**　中川繁丑著　昭和八年
(二七一) **秋山眞之**　櫻井眞清著　昭和八年
(二七二) **秋山海軍少將軍談**　村上貞一編　大正六年
(二七三) **鐵櫻漫談**　小笠原長生著　昭和三年

等がそれである。

日清戰爭にひきつづき、日露戰爭をあつかつた

第六章

に關しては、まづ戰史的文獻としてつぎのやうなものを擧げることができる。

(二七四) **明治三十七八年日露戰史**（二十冊）　參謀本部編　明治四十五年
(二七五) **明治三十七八年海戰史**（三冊）　海軍軍令部編　明治四十二年
(二七六) **日本海大海戰史**　海軍軍令部編
(二七七) **日露戰爭實記**（百十冊）　博文館編　明治三十七—八年
(二七八) **日露戰役史**（二冊）　早稻田大學編輯部編　明治三十八—九年
(二七九) **日露戰史**（二冊）　帝國史學會編
(二八〇) **日露海戰記**　海軍勳功表彰會編　明治三十九年
(二八一) **日露戰爭史**　廢兵慰籍會編
(二八二) **日露陸戰新史**　沼田多稼藏著　岩波新書版　昭和十五年
(二八三) **日露戰爭史**　藤牧左門著
(二八四) **日露戰爭前後**　堀眞琴著　昭和十五年
(二八五) **日露陸海軍公報集**（五冊）　新橋堂刊
(二八六) **日本海大海戰圖解說明**　田熊万藏著

これらはだいたい概觀的ないし一般的な文獻であるが、これにたいし專門的立場からする研究書および資料書として

(二八七) **日露戰史戰例索引**　參謀本部編

（二八八）**日露戰史例證集**　陸軍大學校編　大正六年
（二八九）**日露戰爭に於ける露軍の後方勤務**　參謀本部編
（二九〇）**日露戰史摘例集**　ミエーフ著陸軍大學校刊
（二九一）**日露戰史講授錄**　梅崎延太郎述
（二九二）**戰爭史概觀**　四手井綱正述　昭和十八年

等がある。右を通じて（二八二）は小冊ながら、日露戰爭の作戰經過に關して最良の記述を有しており、今日なほ價値たかきものである。また（二九二）における日露戰爭關係の記述はその一部分をなすにすぎないのであるが、大局的な戰爭指導上の觀點から論評されており、讀者に多くの示唆をあたへてくれる。いふまでもなく今日における水準的な性質のものである。筆者は本書における作戰的部分を、これらの書物と前出（一九三）の當該部分、ならびに研究論文「戰略的見地に基く日露戰史の研究」（「兵學研究會記事」第三百四十三號以下掲載）等にしたがつて記述した。日露戰史の研究は、今後もますます重要視されるものと考へられる。

これら戰史的文獻に對し、特殊な編纂物として

（二九三）**明治三十七八年戰役陸軍政史**（十冊）　陸軍省編　明治四十四年
（二九四）**日露戰役海軍衞生史**　海軍省醫務局編　明治四十三年
（二九五）**三十七八年戰役救護報告**　日本赤十字社編

等があるが、このうち（二九三）はおそらく軍事史の立場から日露戰爭をとりあつかふ場合の最上無二の資料たるものであらう。これを同じ官撰の（二七四）とならべると、戰史的資料と軍事史料との區別がきはめて明瞭となる。いはば戰爭の二つの面、その表面と裏面とがこゝに浮彫りにされてあらはれるのである。

さて日露戰爭にたいする外國側の論評としては

（二九六）**タイムス日露戰爭批評**（三冊）　時事新報社編　明治三十七—八年
（二九七）**外人の觀たる日露戰爭**　河島紫川編　明治三十七年
（二九八）**明治三十七八年海戰に關する外人の評論**　海軍軍令部編
（二九九）**列强兵學家の日露戰爭に就て戰術上の意見**　武章生編

等の譯書が出されてゐる。

この戰爭についての個人的な手記、回想錄、從軍記、あるひはそれらを材料とせる戰記の類はおびただしい數に達するが、それらのうちめぼしいものを列擧すればつぎのごとくである。

（三〇〇）**日露大戰を語る**　東京日々新聞社編　昭和十年
（三〇一）**日露大海戰を語る**　東京日々新聞社編　昭和十年
（三〇二）**日露大戰秘史**（二冊）　朝日新聞社編　昭和十年
（三〇三）**日露戰爭を語る**（三冊）　時事新報社編　昭和十年
（三〇四）**陸軍大學校課外講演集第二輯**　牛島貞雄編　昭和六年

(三〇五)　**戰袍餘薫懷舊錄第二輯**　海軍有終會編
(三〇六)　**日露戰役回顧談集**　京都聯隊區編
(三〇七)　**明治三十七八年海戰誠忠錄**　水交社編
(三〇八)　**從軍記者の見たる日露戰爭裏面史**　新聞之新聞編輯局編　昭和十年
(三〇九)　**日露戰爭當時の內外新聞抄**（「戰記名著集第十卷」所收）　戰記名著集刊行會編輯部編　昭和四年
(三一〇)　**戰爭秘話日露戰役**（三冊）　樋山光四郎編　昭和十年
(三一一)　**兩戰役回顧錄**　藤井茂太著　昭和十一年
(三一二)　**予が觀たる日露戰爭**　佐藤清勝著　昭和六年
(三一三)　**日露大戰の回顧**　田中義一著　昭和十年
(三一四)　**斜陽と鐵血**（「戰記名著集第五卷」所收）　津野田是重著　昭和四年
(三一五)　**軍服の聖者**（「戰記名著集第五卷」所收）　津野田是重著　昭和四年
(三一六)　**肉彈**　櫻井忠溫著
(三一七)　**旅順を落すまで**　佐藤鋼次郎著
(三一八)　**軍事談片**（「戰記名著集第四卷」所收）　小笠原長生著　昭和四年
(三一九)　**旅順戰話**（「戰記名著集第四卷」所收）　小笠原長生著　昭和四年
(三二〇)　**掃露餘風**　東鄕吉太郎著
(三二一)　**鶴田軍醫總監日露戰役從軍日誌**　陸軍軍醫團編　昭和十一年

(三二二)　**一兵卒の征露日記**　大澤徑著　昭和十二年
(三二三)　**征露の凱歌**　多門二郎著　昭和十八年
(三二四)　**此一戰**　水野廣德著
(三二五)　**旅順戰と乃木將軍**　宿利重一著　昭和十六年
(三二六)　**聖將東鄕と靈艦三笠**　尾崎主稅著　昭和十年
(三二七)　**旅順攻略海軍陸戰重砲隊**　江森重吉著
(三二八)　**日露戰爭秘史滿洲義軍**　山名正二著　昭和十七年
(三二九)　**東鄕元帥の戰略戰術**　小笠原淳隆著　昭和十八年

これらと同じ種類のもので外人の手になるものの飜譯は

(三三〇)　**外國武官觀戰記**（「戰記名著集第八卷」所收）　昭和四年
(三三一)　**思ひ出の日露戰爭**　イヤン・ハミルトン著松本泰譯　昭和十年
(三三二)　**日露觀戰雜記**（「戰記名著集第十一卷」所收）　イヤン・ハミルトン著　昭和五年
(三三三)　**彈痕抄**（「戰記名著集第十一卷」所收）　マックス・ベールマン著　昭和五年
(三三四)　**殉國記**（「戰記名著集第十二卷」所收）　ウラジミル・セメヨノフ著　昭和五年
(三三五)　**敗戰**（「戰記名著集第十二卷」所收）　ウェー・ウェレッシェヨー著　昭和五年
(三三六)　**コサック奮鬪錄**（「戰記名著集第八卷」所收）　フランシス・マクカラア著　昭和四年

（三三七）**ノヴイツク物語**　エイ・ピー・スティーヤル著眞木重愛譯　大正二年
（三三八）**日露戰爭に於けるクロパトキン**　BA著參謀本部譯
（三三九）**ベルツの日記**（岩波文庫）　トク・ベルツ編　昭和十八年
（三四〇）**全滅の戰列**　フランク・テイエス著大河原・川村共譯　昭和十五年
（三四一）**犧牲の艦隊**　パレオログ著古野清人譯　昭和十六年

等が一般に刊行されてゐる。

ところでこの日露戰爭におけるロシア側の軍制內容その他を知るためには

（三四二）**露國兵制論**　リッチッヒ著
（三四三）**陸大講本平時戰時露西亞軍**　藤山治一譯　明治二十七年
（三四四）**戰後露國の外交及軍事**　外交時報社編　大正三年

等の參考書をあげることができよう。これについで以下の書物は、日露戰爭にのぞんだロシア軍事機構の種々な部面への假借なき自己批判、痛烈なる內部的反省等をふくむきはめて貴重な文獻であると云へる。ロシア軍事機構が內包せる缺陷や弱點は、これらの書において明瞭かつ端的に曝露されてゐる。

（三四五）**ウイツテ伯回想記日露戰爭と露西亞革命**（三冊）　大竹博吉監修　昭和六年
（三四六）**クロパトキン回想錄**（三冊）　參謀本部譯　明治四十三年
（三四七）**露國海軍中佐クラード論文集**　海軍軍令部譯　明治三十八年
（三四八）**悲痛なる日露戰爭の經驗**　マルツキノフ著　明治四十年
（三四九）**日露戰爭に於ける露軍失敗の原因**　デ・バルスキー著河津敬次郎譯　大正二年

なほかうしたロシア側の軍事內容をより全體的に把握するための前提として、その政治經濟狀態や對東洋政策の變遷等をみる上に參考となるものは、つぎの書物である。

（三五〇）**ロシヤ史**　ポクローフスキイ著岡田宗司譯　昭和十一年
（三五一）**ロシア經濟史**（二冊）　リヤシチェンコ著東健太郎譯　昭和十五—六年
（三五二）**露西亞帝國滿洲侵略史**　ロマノフ著大竹博吉監修　昭和九年
（三五三）**近世露滿蒙關係史**　サッヴィン著川田秀雄譯　昭和十年
（三五四）**露國の東亞政策**　齋藤清太郎著　昭和八年

以上のほかこの戰爭の外交問題に關する書物を二三揭出すれば

（三五五）**日露外交史**　沼田市郎著　昭和十八年
（三五六）**日露戰役秘錄**　金子堅太郎著　昭和四年
（三五七）**ポーツマス講和會議日誌**　コロスウェッツ著島野三郎譯　昭和十八年

等がある。前出（三四五）がこの方面の豐富な資料をふくんでゐることは、いふまでもあるまい。

最後に日露戰爭と特に密接な關係を有する個人の傳記書の類を、一括してしめしておかう。

（三五八）**奧元帥傳**　黑田甲子郎著

（三五九）**秋山好古**　秋山好古大將傳記刊行會編　昭和十一年

（三六〇）**將軍長岡外史**　坂部護郎著　昭和十六年

（三六一）**元帥上原勇作傳**（二冊）　荒木貞夫編　昭和十二年

（三六二）**陸軍大將鈴木莊六傳**　萩原俊三著　昭和十八年

（三六三）**廣瀨中將の面影**　陸軍大學校刊　昭和十年

（三六四）**明石大將傳**　杉山茂丸著　大正十年

（三六五）**明石元二郎**（二冊）　小森德治著　昭和三年

（三六六）**明石將軍**　西川虎次郎著　昭和九年

（三六七）**陸軍大將田中弘太郎傳**　陸軍技術本部編　昭和十五年

（三六八）**柴野中將傳**　河合辰太郎編　大正十五年

（三六九）**東鄕平八郎全集**（三冊）　小笠原長生編　昭和五年

（三七〇）**聖將東鄕全傳**（三冊）　小笠原長生著　昭和十五―六年

（三七一）**東鄕平八郎**　エドウィン・フォーク著柴田・木田共譯　昭和十六年

（三七二）**元帥加藤友三郎傳**　加藤元帥傳記編纂會編　昭和三年

（三七三）**齋藤實傳**　兒玉秀雄編　昭和十六年

（三七四）**秋山眞之將軍**　松田秀太郎著　昭和六年

（三七五）**一戸將軍**　小原正忠著

（三七六）**下瀨火藥考**　松原宏遠編著　昭和十八年

以上をもつてだいたい幕末から日露役までにいたる軍事史關係の文獻解說を終るのであるが、なほ最後に日露戰後より明治末年へかけて、帝國陸海軍があらたに直面することとなつた內外軍事情勢の理解のために、參考となり得る文獻を若干附加しておきたい。

（三七七）**二年兵役論**　東洋經濟新報社編　明治三十五年

（三七八）**軍政改革論**　西本國之輔著　明治四十五年

（三七九）**帝國及列國海軍**　小栗孝三郎著　明治四十二年

（三八〇）**海軍趨勢**　小栗孝三郎著　明治四十三年

（三八一）**國防海軍論**　川島清治郎著　明治四十四年

（三八二）**海上の日本**　川島清治郎著　大正三年

（三八三）**滿蒙處分論**　クロパトキン著大井包孝譯　大正三年

（三八四）**現代戰爭論**　ノルマン・エンセル著安部磯雄譯　明治四十五年

（昭和一九・三・三〇記）

事項並びに人名

索　引

ア

頁

赤城艦 …… 261

赤羽工作分局 …… 198

安藝艦 …… 403— 4

秋月の亂 …… 106

愛宕艦 …… 260

壓搾式青銅砲 …… 194

熱田兵器製造所 …… 458

壓磨式火藥製造 …… 123.201

天城艦 …… 124

アームストロング

　エルヂック工場 …… 258— 9

　會社 …… 195.200.258.265.458

　艦載砲 …… 259.454

　後裝砲 …… 51.119

アメリカ

　海軍 …… 120

　海軍主腦部 …… 374

　海軍大學 …… 371

　南北戰爭 …… 198.335

アルビニー銃 …… 122.125

★

會澤正志 …… 20

青木周藏 …… 216

赤松則良（大三郎） …… 145.198

秋山眞之 …… 371.373— 5

アーベル …… 259

アームストロング …… 193

有坂成章 …… 450

アルビニー …… 2 8

アレキサンダー二世 …… 392— 3

アレキサンダー三世 …… 393

アレクセーエフ …… 403.409

イ

イギリス

　海軍 …… 120.148.258— 9

　艦隊訓練法 …… 367

　教師團 …… 149

　產業資本 …… 344

　製艦界 …… 199

　方式 …… 148

生野義擧 …… 26

池貝鐵工所 …… 458

生駒艦 …… 463

石川島造船所 …… 121.347—8.461

伊集院信管 …… 455

維新政府

　軍事機構 …… 5

　經濟政策 …… 172.189

　模範工場設置 …… 117

　歷史的任務 …… 81.93.117

板橋火藥製造所 …… 123.201

イタリー式海岸砲 …… 195.256

一年志願兵制 …… 228

伊吹艦…… 463— 4
岩倉要撃…… 106
岩鼻火藥製造所…… 201

★

井口省吾……279.386.388
伊地知幸介…… 279
伊東祐享……306.314.368
伊藤博文……215.221.315

ウ

ウィットウォース製鋼所…… 265
ウェストリー・リチャーズ銃…… 190
ウェルンドル銃…… 190
ウォーリア（英艦）…… 198
浦賀ドック會社…… 457.461

★

ヴィエイユ…… 254
ウィッテ…… 417
ヴェルノア…… 278

エ

衞戍條例…… 225
驛傳制度…… 117
エンピール銃…… 122.125
エンフィールド小銃
製造所…… 265

★

江川坦庵…… 45.74— 5
エシマン…… 145
江藤新平…… 172

オ

大阪商船會社…… 348
大阪鐵工所…… 348.461
大阪兵學寮…… 142— 3
大阪砲兵工廠……123.125.195.255— 7.263.266.451— 2.457.459—60.463
大島艦…… 2 1
歐洲兵制視察旅行…… 221.279
オーストリー陸軍……72
王政復古……22.52.102.141
小田式敷設水雷…… 454
小野濱造船所……199.261.453
小原彌惣八軍律處
分事件…… 173
オブコフ大砲製造所…… 265.421

★

小笠原長生…… 373— 4
大河平才藏…… 196
荻生徂徠…… 15.17— 8
大國磐…… 281
大久保利通……95

大島貞恭…… 281
小關三英…… 73.75
太田德三郎…… 195
大村益次郎…… 94—9.141—2.285
大山巖……170.217.220— 1.227.234.303.314.400.406

カ

海岸砲制式審査委員…… 256
海軍擴張計畫……232.298.388— 9.391.452
海軍軍令機關の獨立…… 233— 4
海軍軍令部…… 400
海軍軍令部條例…… 234
海軍省設置…… 120
海軍操練所…… 148
海軍造船所條例…… 200
海軍造兵廠…… 196—7.257.263.348.454
海軍大學校…… 366—7.370.374—5.391
海軍大學校條例…… 370
海軍兵學（思想）…… 365.368.370— 5
海軍兵學寮…… 148— 9
海軍兵器會議…… 259
海軍兵器局…… 198
海軍砲術教育…… 148
借行社…… 227
カイノック社…… 458
海門艦…… 124.198
各鎭台司契條例…… 225
ガットリング機關砲…… 341
葛城艦…… 197.199.257
カネー式速射砲…… 452
火藥製造法取調委員…… 200
家祿奉還…… 105— 6
川崎造船所……347—8.461
監軍…… 225
監軍部…… 223—4.226.286
監軍部條例…… 220
艦載砲の統一…… 258
艦隊條例…… 302

★

片岡健吉…… 272
桂太郎……216—7.220—1.227.234.279.285.303.405
加藤友三郎…… 375
樺山資紀…… 264.306.315
蒲生君平……19
賀茂眞淵……18
川上操六…… 216—7.221.279—80.284—7.298.303—4.308—9.313.315—6.387—8
川村純義…… 101.176.217

キ

機械制工業
　近代的機械體系……50
　時代……41
　日本における育成……118
　日本における發展……445
　日本における勃興……343—4
騎士制……20—1
キャメル製鋼社……265
仰資奉還……105—6
京都兵學校……142
教導隊……142.144
教導團……146—7
キングスノルトン社……458
近世常備軍制度……21.27.40
近代（古典派）兵學……277.284.365
近代兵制
　移行の條件……21.80
　確立……229.231
　憲法との關係……219
　原理……102
　國民皆兵（主義）……95.101.103—4.169.176.223.227—9
　國民的基礎……166—7
　思想……97
　實施の前提條件……99
　創出……22
　必任義務の原則……103
　萠芽……21
金祿公債證書發行條例……106

ク

公卿諸侯……99—100
熊本の亂……106
グラー銃……192.341
藏前取……13
クリミヤ戰爭……365.396
クルーゾー式製鋼……264
クルーゾー社……261.265—6
クルップ
　會社……250.458.462
　艦載砲……196—7.258—9
　攻城砲……451
　工場……193
　式製鋼……196
　野砲……119.193—4.257.341
呉海軍工廠……453—4.460.463
呉鎭守府……348
黑船……47
軍學……70.76
軍事工業
　機械制……51.190.336.338
　先行的發展……48.126.336.340
　幕末藩營の……45.48—9.341.
　明治官營の……124.126.188.263.340
　ヨーロッパ官營の……40.333
軍事參議院……230
軍人訓誡……174
軍人政治干與禁止……174.226
軍人勅諭……175
軍制改革
　幕末の……24
　明治の……177.215—8.222.279
軍制上の基本組織……219—20.233—4.393
軍隊教育の原則……175
軍隊內務書……143
軍部大臣武官專任制……231
軍部派閥主義……226—7
軍法會議規則……220

★

久坂義助……24
グスターフ・アドルフ……71
グナイスト……221
熊澤蕃山……14—8
クラウゼヴィッツ……277—8.280.285
クラード……373
グリロ……195.256
クロパトキン……409.411

ケ

京城の變……175.344
血稅騷動……105
月曜會……227
憲兵制度……174
憲法
　制定……168.171.173.215.219.221
　草案起草……215
　發布……230

コ

航海奬勵法……455
國學思想……18
國民經濟
　形成……49
　主要特徵……128
　政策……118.188
御詔勅（御沙汰）
　海防費に關する……256.317
　國會開設の……173
　製艦費に關する……234.317
　陸海軍整備に關する……176
御親兵……27.98.101.144
古代兵制……14.17.20—2.174
鋼鐵艦製造への轉換……260
高等司令機構（機關）……223.225—6
近衞各鎭台陣營經理
　部條例……225
近衞各鎭台糧食條例……225
近衞鎭台監督部條例……225
講武所……78
工部省……118

コルダイト…… 259
金剛艦…… 198
金剛艦（二代）…… 464

★

小坂千尋…… 281
高宗…… 333
兒玉源太郎…… 216—7.226.282.305.288.401
後藤象二郎…… 172
ゴルツ，フォン・デル…… 279
コルト…… 191
コロム……371—2.374

サ

最高等陸軍參議官…… 225
佐賀の亂…… 106
鎖國政策……23.37.69
佐世保海軍工廠…… 454.460
薩英戰爭……49
薩摩艦…… 463
產業革命…… 41.189—90.339—40.343.445
產業資本……93.189.334—5.345.445.447
產業保護助長政策……118.128.188.349.455.461.464
參覲交替制……14
三國干涉……322.324.369.385.388
サン・シャモン製鋼社…… 265
三十一年式速射野山砲…… 451
三十年式步兵銃…… 450.462
三十年戰爭……71
三八式機關銃…… 462
三八式重砲…… 463
三八式步・騎兵銃…… 462
三八式野砲…… 462
三兵戰術…… 72—9
參謀本部…… 223.234.279.285—6.302.304.400—1
參謀本部海軍部…… 366
參謀本部條例…… 220.230
參謀旅行演習…… 282

★

西鄉隆盛……95—6.98.285
西鄉從道…… 101.217.220.234
阪元俊一…… 196
佐久間象山…… 76
左宗棠 ……336—8
サットン…… 149
佐藤信淵…… 3
佐藤鐵太郎……373—4
サムソン…… 374
澤太郎左衞門…… 123
三條實美…… 173

シ

思案橋事件…… 106
四境戰爭 ……94
司契部條例…… 225
師團司令部條例…… 225
師團編制 ……224—5.281.386
七サンチ野山砲……195.256.450.460
七大海軍國…… 390—1
芝浦製作所…… 458
島原の亂……37
下瀨火藥 …… 455
シャスポー銃…… 119.190
集會條例…… 174
儒教……18.71
銃陣（隊）…… 69
縱陣戰術…… 365
集成館 …… 50—1.121
集團的火戰々法……69
自由都市……21.37.40
シュナイダー式速射砲…… 452
自由民權運動…… 172
衝角戰術 …… 365
城下町……22
尙齒會 ……73
小銃兵器の統一 …… 254
清韓視察旅行…… 288
迅鯨艦…… 124
清國
　阿片戰爭……73.75.299.318.335
アロー戰爭…… 335
官營軍事工業……333.336
廣東水師……300—1
機械制工業勃興……338.342
吉林造船廠…… 333
近代軍制改革…… 299
江南製造總局……336—7
作戰計畫……306.311.319
社會經濟的性格……334.339
戰術…… 320
對英佛戰爭…… 299
太平天國亂……335—6
天津機器製造局…… 337
統帥機構…… 319
南京條約…… 335
南洋海軍……300—1
八旗軍…… 300
福建水師……300—1
兵器…… 341
兵制…… 319
北洋水師……300—1.307—8.312.315.321
馬尾船政局……336—7
勇軍…… 301
陸海軍兵力…… 300
綠營…… 300
練軍…… 301

★

シェレンドルフ…… 278
島村遠雄……298.366—8.375

シャープ…… 191
シャルンホルスト…… 278.285
シュタイン…… 216.221

ス

スコットランド製鋼會社…… 265
スナイドル銃（スナイダー銃）……119.122.125.190.192.254.337.341
スプリングフィールド銃…… 190
スペンサー銃…… 119

★

鈴木貫太郎…… 373
鈴木春山…… 73—5

セ

清輝艦…… 124
征台役…… 106.127
西南役（十年役）……106—7.124—7.147.165.172.187.191.201.341
關口製作場……50.121
戰國時代……70
戰後經營案…… 386
戰時編制…… 297—8.387—8
戰術
近世式…… 71—2
近代的…… 72—5
思想…… 70—1
中世式…… 72—3
幕末戰術革命……73—7.81
前裝銃より後裝銃への轉換…… 190
戰闘方法取調委員…… 366

★

西太后…… 317

ソ

造船奬勵法…… 455
槍兵…… 71—2
草莽隊（兵）…… 26—7
尊王思想……17.19.22

★

副島種臣…… 172
曾我祐準…… 97.173.226—7
宋慶…… 319
曾國藩…… 336

タ

大權主義…… 230
大船建造禁止令…… 22.46
大隊區司令部條例…… 225
代人制…… 103.176
台場……44
高雄艦…… 260
竹橋騒動…… 173
太政官制度…… 215
短期現役後備軍制度…… 219.395

短期現役制…… 229
單發銃より連發銃への轉換…… 254

★

高島秋帆…… 45.74—5.78
高杉晋作……24
高野長英…… 73—4
太宰春台…… 15—6.18—9
谷干城…… 173.226
田村怡與造……279—80.284.286—8.302.387—8.400—1

チ

知行權……13
地所永代賣買解禁…… 101
地租改正…… 104
秩祿處分……100.105—6.150
知藩事…… 100
中央集權政府…… 21.27.40.95
長期現役聯隊幹部制度…… 219.395
長州奇兵隊 ……24.95.97
朝鮮の諸事變…… 215.297
千代田形……51
徴發令…… 220
徴兵
忌避…… 169.176
事務條例…… 220.229
職業構成 …… 166
制度…… 51.72.101—8.141.146.165.168—71.219.227—9.231.319
不參 …… 169
法に關する建議…… 169
徴兵令
改正……169.176.220.227—9
限界 …… 165
告諭…… 102
滲透…… 168.171
制定・發布…… 101.104—5.141.146.151.165
徴募兵制……21.25.72
鎮台…… 99.101.119.146—7.253
鎮台幹部…… 147
鎮台條例…… 220.225
鎮台編制…… 223.225

★

張之洞…… 338

ツ

筑紫艦…… 200
筑波艦…… 149
筑波艦（二代）…… 463

★

塚本明毅（恒甫）…… 145

テ

鐵道國有方針…… 346

鐵砲鍛冶……38－40.43
テルニー製鐵所……264
天誅組……26
天龍艦……124.198

★

寺内正毅……283.386

ト

ドイツ
艦隊法……398
軍事學……216.280
參謀部……222.278－80.285
士官教育法……283
式火藥製造……201
人教師……196
兵役制度……227
兵學……277－80
方式……143.218.220.222
東京砲兵工廠……122－3.125.191－2.
253.263.266.450.
458－60.463
德川
時代の軍事機構……69
幕藩體制……22.25.27.93
幕府（政權）……13.19.21.37
刀劍鍛冶……38
統帥權の獨立……230
倒幕運動……26.95
戸山學校……147
戸山出張所……146
登用鄕士制度……17
ドライゼ銃……191

★

ドウグラス……149
東鄕平八郎……375
東條英教……279.386
ドラゴミロフ……419
鳥尾小彌太……173.226－7

ナ

內閣制度……215.221
長崎工作分局……126
長崎製鐵所……121
長崎造船所……347－8.461
ナポレオン戰爭……72

★

中牟田倉之助……234
中村雄次郎……281
ナポレオン……72.372
南部麒次郎……462

ニ

新潟鐵工所……458
日露戰爭……4－5.284.371.373.
375.423.448
蔚山沖海戰……410
影響……422
黃海海戰……410
黑溝台戰鬪……413
根因……385

根本理念……416
作戰計畫……401.406－7.414
作戰準備……387
沙河會戰……411
生產的基底……445
生產動員……457－8
大本營……407－10.413－4
南山戰鬪……408.457
日本海海戰……414
兵器大製造計畫……459
奉天會戰……413.415.418.459
滿洲軍總司令部……410.413
旅順攻略……409－10.412.451
遼陽會戰……411.415.458
聯合艦隊……414.453
日清戰爭……215.232.234.
253.255.259.
262.286－8.373.
385.406.423.
448.457
威海衞攻略……311.315
海戰の教訓……365.368
黃海海戰……310－1
作戰計畫……304－6
勝敗の原因……316－8
眞意義……322－4
成歡の戰鬪……307
生產的基底……342.345.349
征淸大總督府……316
大本營……302－3.307－8.313－4
東學黨の亂……302
平壤攻略戰……310
豐島沖海戰……307.310
旅順攻略……311－3
聯合艦隊……302.306－7
日本鐵道會社……461
日本郵船會社……347－8
ニューヨーク（米艦）……374

★

西周……144－5

ヌ

沼津兵學校……144.146

ネ

ネヴァ造船所……421

★

ネルソン……365

ノ

農兵制（隊）……23－5
ノーベル社……458
ノルデンフェルト砲……275

★

野津道貫……303
ノーブル……258

ハ

廢藩置縣……99－100.106.118.
144

馬關戰爭……49
萩の亂……106
幕僚參謀條例……220
橋立艦……259
反幹部派……227
反射爐……44.46.50.195
磐城艦……124.198
版籍奉還……94.100
ハンディ（英艦）……258
藩閥政府……172
藩兵廢止……95.99

★

パパシュール……258
林有造……172
原田一道……97
原田宗助……195—6
バリャチンスキー……393
バルテルミー……277

ヒ

比叡艦……198
火繩筒……80
被服廠條例……225
兵庫工作分局……126
兵部省……99.142.148

フ

普墺戰爭……193.277
武官官等表……220
富國强兵策……187
武士
教育の原理……70
經濟的窮乏化……14
支配（政治）……17—9.37—8
城下集中政策……13
士着說……16—9
武家諸法度……38
身分の解體……94.100.105—6
身分の賣買慣習……17
武州德丸ケ原砲術實演……74
扶桑艦……196.198
プチロフ製鋼所……421
普佛戰爭……193.277.457
フランス
海軍……199
革命戰爭……72
軍事學……95
軍制改革……219
人教師（技師）……124.143.145.198.277.283
戰術……277
操典……143.282.287
方式……143.218.220 393—4
無煙藥……255
陸軍……51.72
ブレンドリン・アルビニー銃……190
プロシヤ
帷幄機關……225
軍制改革……219.222

方式……393—4
砲兵……193
陸軍部……222.280
立憲主義（憲法）……221
分業制手工業……42.118.189.334—5.342

★

ファヂエェフ……393
福島安正……279.388
藤井茂太……279
藤田東湖……20
船越衛……97
ブランデンスタイン……278
フリードリッヒ大王……72
ブリュネ……195
ブルーメ……278.284
フレイサー……193

ヘ

兵器生産の獨立化……187.193.195.198.201.253.262—3.266.341.343.462.464
兵事課設置……170
兵制改革……13.22—4.26—7.97—102.117.168
米西戰爭……373—4
兵農
一致制……14—8
階層的地域的分離……13
經濟論的兵農策……15.18—20
國防論的兵農策……19
兵備表……176
兵法（流派，書）……70—1.76
平民苗字・乘馬解禁……100
ベスレヘム製鋼社……264
戸田村造船……47
ベルダン銃……191
ペルリ來航事件……45.76
ペンブローク造船所……200

★

ベルタン……260

ホ

北清事變……387
封建
階層制（位階制）……69.101
諸侯……13.40.70.94.100
制度の特質……13
身分制度……16—9.70.96.99—102
封建兵制
解體……23
改良策……17
根本的否定……16.19
自已批判……14.18.20.22
諸矛盾……13.19
人口的基礎……166
敵手……26

徴廢……99.102
封建主義との關係……13
砲工學校……283
砲術……71.76
砲術生徒學舍……148
北海道開拓使事件……173
ホッチキス砲……257—8.450.462
砲兵
近世砲兵戰術……71—2
工廠條例……193
幕末砲兵戰術……79
歩兵組……24
ボーモン銃……192
★
ボグスラウスキー……279
穆宗……335
ホース……148
豐太公……3

マ

舞鶴軍港……454
マジェスチック（英艦）……453
摩耶艦……261
マンソー銃……125
マンリッヘル銃……255.337
★
マカロフ……373.410
マキャヴェルリ……20—1
松方正義……188
松川敏胤……279.388
マハン……371—5
マルクリー……145

ミ

宮原式水管汽罐……454
苗字帶刀制……17
民選議院設置建白……172
民兵制（隊）……21.23—5
★
三浦梧樓……173.226—7
ミリューチン……393

ム

無煙火藥……254—5
武藏艦……197.199.257
村田銃（十三年式，十八年式，連發）……192.253—5.263.337.450.460
★
村田經芳……191.255

メ

明治維新……3—5.13.27.150.218.339.446
維新戰爭……341
上野戰爭……94
奥羽函館戰爭……94
戊辰戰爭……118
名分論的倫理觀念……70
目黒火藥製造所……201

免役制……176.228
★
メッケル……222—9.277—82.284.286

モ

モーゼル銃……191.337.341
モルトケ流派……366
★
本居宣長……222
モルトケ……277—81.285—6.303.305

ヤ

八重山艦……260
野外要務令……287
野山砲の統一……256
大和艦……197.199.257
山内速射砲……454
八幡製鐵所……456.463
★
山縣有朋（狂輔）……24.97—102.143.146.170.174.217.220.303
山縣大貳……19
山地元治……303
山田顯義……97
山本權兵衛……232—4.264.304—5.388—9.405
山屋他人……373

ユ

湯島鑄立場……50
★
ユカチュース……194
由利公正……172

ヨ

横須賀海軍工廠（造船所）……121—2.124.149.198—200.260.264.266.453—5.463
横濱陸軍學校……142—3
洋式
工業……42
銃砲……43.119.336
製鋼法……197
戰術（銃陣）……74.77
造船術……47
兵學……73—6
砲術（家）……43.45.78
吉野艦……259
傭兵制……20—1.319
四一式山・騎砲……462
四斤野山砲……51.119.123.193
四五式攻城砲（重砲）……463
四將軍上書事件……173
★
吉田松陰……24.76

葉志超……319

ラ

蘭學（者）……43.45.73—4.94

リ

陸海軍擴張……176.215.297.386
陸海軍幹部の性格……150
陸海軍刑法……174
陸海軍傳習事業……79
陸海軍聯合大演習……287
陸軍一年志願兵條例……229
陸軍會計部條例……220.225
陸軍擴張計畫……223.386.452
陸軍各兵科現役士官
　補充條例……283
陸軍給與概則……220
陸軍檢閲條例……220.226
陸軍士官學校……146—7.277.283—4
陸軍士官學校條例……283
陸軍省……223.282
陸軍職制……220
陸軍進級條例……226
陸軍戰時編成概則……220
陸軍大學校……277.279.281.284.287.388
陸軍祕書部……225
陸軍文庫……286
陸軍兵學寮……143—4.146
陸軍砲兵會議……255.450—2
陸軍幼年學校……146—7.283
陸主海從主義……303.374
リッサ海戰……365
リー・メットフォード銃……255
龍驤艦……126.148
糧食條例……225
旅團條例……225
旅團司令部條例……225
臨時陸軍制度審査委員……226

★

李鴻章……300.321.336—7
林則徐……335—6

ル

ルベル銃……255

★

ルボン……119

レ

レミントン銃……190.337.341

★

レミントン……191

ロ

魯艦ディヤナ號……47
ロシア
　海軍擴張……390.397—8
　軍事機構……392.417—20
　軍制改革……393
　經濟體制……446

黑海艦隊……397—8
國家の性格……392
作戰計畫……402—5.408
シベリア鐵道……398.400.448
政府……193.302
戰爭準備……398—9
造兵造艦機構……448
太平洋艦隊……399.403.406
東清鐵道……398.404
農奴解放……392.419.446
バルチック艦隊……397—8.410.412.414
兵制……394—5
陸軍勢力……396
ロマーノフ家……392.420
露土戰爭……393.396—7.457
浪人武士……70
露佛同盟……447

★

ローン……222

ワ

和流兵學……76
和流砲術家……78

★

ワルデルゼー……279
ワルテンブルヒ……279

統計表並びに一覽表

索　引

第一章

頁
明治初頭各藩農兵隊表……32— 3
堺鐵砲註文員數表（德川時代初期）……52— 3
堺鐵砲鍛冶諸家御出入表……53
國友鐵砲鍛冶諸侯納入表……54
歐米軍事技術發達年表（德川時代）……55— 7
幕末新兵器發明年表……57— 8
天保弘化年代諸藩兵器事業一覽表……58
諸藩兵器事業擔當者系譜……58— 9
嘉永安政年代諸藩兵器事業一覽表……59—60
幕末期國內製造帆・汽船一覽表……60— 2
諸藩機械制工場・造船所一覽表……62— 4
維新前後小銃輸入統計表……64— 5
幕末期輸入帆・汽船製造國別表……65
幕末三兵戰術書飜譯年表……82— 3
諸藩陸海軍傳習事業一覽表……84— 5

第二章

明治四年全國兵力表……108—10
血稅騷動一覽表……110—11
明治四年官省役人族籍別表……111— 2
明治九年＝十三年中央・地方官吏族籍別表……112
明治八年六管鎭台兵額表……113
幕末期洋式小銃種類別表……128
明治四年政府所有軍艦表……128— 9
明治五年日英米海軍力比較表……129—30
維新政府造兵造艦設備再編成表……130—31
幕末軍事工場國際比較表……131— 2
明治初期陸海軍工場雇入外人表……132— 3

明治初年官營四大工廠內容表…… 133
明治初期横須賀工廠起工艦船表…… 134
西南役陸軍銃砲及同彈藥損耗表…… 134— 6
第一回內國勸業博覽會出品機械類別表…… 136— 7
全國汽船・三菱所有船對照表（十年前後）…… 137
沼津兵學校課目內容表…… 152— 4
明治三年海軍兵學寮課目表…… 155— 7
陸軍士官學校入學生徒族籍別表…… 158— 9
明治七年海軍兵學寮入校生徒族籍別表…… 159

第三章

明治六年日本人口族籍別表…… 177
國民職業構成・徴兵職業構成對照表…… 177— 8
明治七年＝十六年徴兵免役料上納者統計…… 178
明治十三年＝二十二年徴兵不參者統計…… 180
明治十六年＝二十二年陸軍行刑總員統計…… 182
明治十六年＝二十二年陸軍監獄入監人員統計…… 182— 3
歐米諸國後裝銃轉換年表…… 202
維新前後日本採用小銃一覽表…… 202— 3
歐米諸國砲熕技術轉換年表…… 203— 4
維新前後日本採用火砲一覽表…… 206— 7
世界造艦技術轉換表…… 207— 8
明治十年＝十七年横須賀・小野濱兩造船所起工軍艦表…… 208— 9
明治十七年官營四大工廠內容表…… 209—10

第四章

明治二十三年世界主要國陸海軍備表…… 234— 5
日清戰前陸軍擴張計畫內容表…… 235— 6
陸軍高等司令官司建制表…… 237— 8
明治二十一年陸海軍將校出身別表…… 238— 9

明治二十一・二年日本徴兵狀況表…… 240—41
一八六一年プロシヤ徴兵狀況表…… 241— 2
日普徴兵狀況比較表…… 242
日本徴兵制度變遷一覽表…… 242— 3
海軍高等司令官司建制表…… 244— 5
明治十六年度海軍艦艇新造計畫表…… 245
明治十八年度海軍艦艇新造計畫表…… 246
明治二十一年度海軍艦艇新造計畫表…… 246— 7
明治二十三年度海軍艦艇新造計畫表…… 247— 8
明治二十五年度海軍艦艇新造計畫表…… 249
明治二十年東京砲兵工廠內容表…… 267
明治二十年大阪砲兵工廠內容表…… 267— 8
明治二十五年完成海岸砲種類・員數一覽表…… 268— 9
明治二十三年横須賀工廠內容表…… 269
明治二十年＝二十七年內地製軍艦表…… 269—70
明治十九年＝二十六年英佛註文軍艦表…… 270—71
明治十七年＝二十三年鐵鋼內地產出・輸入統計…… 271
明治二十年陸軍工廠作業材料內外製造別…… 272

第五章

日清役參加各部團體人員表…… 325
日清開戰當時大本營編制表…… 325— 6
三國干涉當時列强海軍力表…… 328
日清役前支那官營軍事工場一覽表…… 350—51
日清役前支那近代工業一覽表…… 351— 2
日清役前帝國軍艦內外製造別表…… 353
日清役前朝鮮輸入額日清對比表…… 354
日清役當時日本民間船渠施設表…… 355
日清役當時日本官民主要船渠船臺表…… 355— 6
日清役當時清國主要船渠船臺表…… 356— 7

日清役前陸海軍工廠發達表 …… 357— 8
日清役中横須賀工廠作業報告表 …… 358—60
日清海軍力比較表 …… 360
戰役參加日清主力艦十隻比較表 …… 361— 2
黄海々戰參加日清軍艦比較表 …… 362

第六章

日清役後海軍第一・二期擴張計畫表 …… 425— 6
明治三十五年以後七大海軍國所有新式艦比較表 …… 426
日清役後海軍第三期擴張計畫表 …… 426— 7
明治三十七年七大海軍國現勢比較表 …… 427
第十八・九世紀ロシヤ戰爭及戰鬪員統計 …… 428— 9
日清役後ロシア海軍擴張表 …… 429
明治十三年—三十一年日露海軍經費比較表 …… 430
日露艦隊勢力比較表（一） …… 432— 3
日露艦隊勢力比較表（二） …… 434
戰役中ロシア兵力增加表 …… 435
戰役後期日露兵力比較表 …… 435— 6
明治三十三年—三十五年壯丁普通教育程度表（大阪府全管） …… 438— 9
明治三十四・五年壯丁普通教育市郡比較表（大阪府全管） …… 439
明治三十五年壯丁學力體格等位表（大阪府全管） …… 439
明治三十五年壯丁學力體格市郡比較表（大阪府全管） …… 439—40
日清戰償金用途別支出表 …… 465— 6
日露經濟的劃期・指標年表 …… 466— 7
日露工業構成對比表（產業革命期） …… 467
日露工業構成對比表（近代產業確立期） …… 467— 8
ロシヤ陸海軍造兵造艦機關一覽表 …… 468—70
明治三十七年中ロシア滿洲軍兵器註文表 …… 470
日本攻城砲準備並使用表 …… 471— 2
海軍第一・二期計畫艦艇內外製造別表 …… 472

海軍第一・二期計畫外國製主要艦一覽表 …… 472— 3
日露開戰當時帝國艦艇內外製造別表 …… 474
明治二十九年以降航海奬勵船舶統計（一） …… 474— 5
明治二十九年以降航海奬勵船舶統計（二） …… 475
明治三十七年度陸軍工廠生產力表 …… 479
戰役間東京工廠製作力增大表 …… 479
戰役間大阪工廠製作力增大表 …… 479—80
戰役間陸軍主兵器移動員數表 …… 480
日清日露兩役御用船比較表 …… 480—81
明治二十九年—四十五年諸工廠製造軍艦一覽表 …… 481— 2
明治末期製艦材料內外別表 …… 482— 3
明治期帝國海軍艦船內外製造別表 …… 483
明治期帝國海軍內地製艦船官民製造別表 …… 483— 4
明治末期陸海軍工廠發達表 …… 484
明治後期軍事工場民間工場發達比較表 …… 485

庫書

出版會承認
い410428

昭和十九年六月十五日初版印刷
昭和十九年六月二十一日初版發行
（三、〇〇〇部）

近代日本軍事史概說
定價金八圓五十錢
特別行政稅相當額五十錢
合計九圓

著者　小山弘健（コヤマヒロタケ）
發行者　伊藤長夫　東京都神田區小川町二ノ四
印刷者　大野治輔　東京都本郷區東片町八三
配給元　日本出版配給株式會社　東京都神田區淡路町二ノ九

株式會社二葉印刷所印行
（東京129號）

發行所　東京都神田區小川町二丁目四番地
株式會社　伊藤書店
出版會會員番號一〇二五一三
電話神田(25)〇二五五番
振替東京七八一七番

守田製本

350

11 J 86

法律資料第一課
27.9.26
調查立法考查局